

13 玉入れ [ディスタンスバージョン]

I 競技の特性

運動会でもっともポピュラーな競技の一つである玉入れ。プレーヤーが一斉に玉を投げ合う様子は、見ているだけでも楽しくなってくる。誰もが知っているこの「玉入れ」も、身体に障害があり、投力の低い人にとっては、あのかごの高さというものが遙か遠い場所を感じることもあるのではないだろうか。

そこで、考案したのがこの「玉入れ [ディスタンスバージョン]」である。既存の道具を使用して簡単にセッティングができるという利点を生かすとともに、「高さ」ではなく「距離」を投げるように変更をした。また、かごはいくつかセッティングし、投てきラインからの距離によって得点が違うという投力に応じられるように工夫されている。また、一番遠い(得点の高い)かごは専任の選手(教員でもよい)が持ち、キャッチすることを構成要素として組み入れた。

II 施設・用具

1.施設

室内外問わず。

2.用具

(1)かご(小2個, 中4個, 大2個, 特大2個)

特に大きさなどはこだわらない。ただし小2個は最終ラインの選手が持つため、持ちやすい大きさがよい。

(2)ボール(紅白各100個程度)

返球することを考えると「玉入れ用の玉」よりは、柔らかいボールがよい。



図1 かごの例

Ⅲ 競技の方法

1.人数

ボールの数にもよるが、1チーム10人程度が適当である。かご係が1人、返球(球拾い)係が2~3人を含む。

2.競技の進め方

2チームの対抗戦で行う。またチームが3チーム以上ある場合も、2チームずつ行う。制限時間(3分)内での得点を競う。

審判の合図で一斉にボールをかご目掛けて投げる。返球(球拾い)係は、転がして返球する。

3.得点

投てきラインからのかごまでの距離によって得点が違う(1P~5P)。

5ポイント(かごを持ったプレイヤー)以外は、バウンドして入っても有効である。5ポイントのかごは、ノーバウンドのみ有効となる。相手のかごに入ってしまったボールについては無効とする。

4.勝敗の決定

制限時間終了後、審判は各かごのボールの数を数え、各ポイントの合計がそのチームの得点となる。

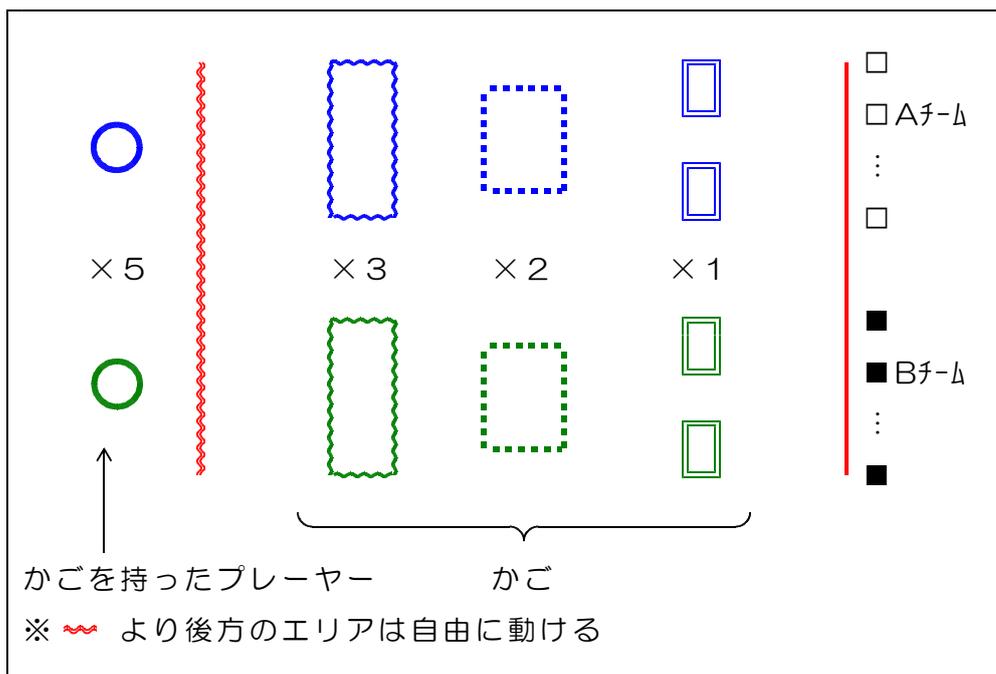


図2 全体図